海上自衛隊第三術科学校を見学
――隊員を短期に戦力化する教育とは

SOLE日本支部三月のフォーラムでは、現場見学会として海上自衛隊第三術科学校を訪問した。ロジスティシャンの養成はロジスティクス・マネジメントにおける主要なテーマの一つである。隊員を短期に戦力化する教育とはどのようなものなのか。教育に力を注ぐ海上自衛隊の姿を紹介する。

（SOLE日本支部会員・川上　智）

航空機整備員・基地員を養成

海上自衛隊には各職種の職務に従事するために必要な知識・技能の教育を行う「術科学校」が全国に四校置かれている。その中で、千葉県の下総航空基地内に所在する第三術科学校は主に航空機の整備員と航空部隊の基地員（施設・地上救難[注]・警備・写真）を養成している。同基地は千葉県北西部の柏市、松戸市、鎌ケ谷市、白井市の間に位置し、敷地面積はほぼ皇居と同じ広さに相当する二五〇万平方メートルである。

同校の歴史は昭和三四年（一九五九年）に開隊した白井術科教育隊に始まる。二年後の昭和三六年二月に第三術科学校として開校し、今年で創立五〇周年を迎えた。現在、学校長を中心に副校長以下、五部二〇課の教官約三五〇人で編成され、年間約一七〇課程（期間：一カ月～一年）で約一四〇〇人の学生を教育している。

[注] 地上救難は、航空機に対する地上での消火活動や航空機搭乗員の救助を主要な任務とする。

八課程中心に幹部・曹士教育

航空機の整備員と航空部隊の基地員に対する教育体系は、幹部の教育体系と海曹士の教育体系の大きく二つに分かれる。航空機の整備について言えば、幹部は主に作業管理や信頼性管理、研究開発、計画策定などに就く管理職であり、海曹士は主に整備作業や航空機上での機器の操作、幹部の補佐などを実施する作業職である。

海上自衛隊としての幹部の教育体系は、主に幹部候補生課程、幹部予定者課程、幹部専門課程、幹部専修科課程、幹部中級課程、指揮幕僚課程、専攻科課程、幹部特別課程、高級課程から成っており、そのうち第三術科学校で教育しているのは、

- **幹部専門課程**：航空機整備等に関わる幹部としての素養を身につける課程
- **幹部専修科課程**：エンジンや機器等に関わる専門的な知識と指揮能力を身につける課程
- **幹部中級課程**：航空機整備や造修全般等に対する知識・技能を教育し、組織の中核となる指揮管理能力を身につける課程
- **専攻科課程**：専門知識に基づく高度な研究を行い幹部指導者としての資質を身につける課程

の四つである（図1）。

一方、海曹士の教育体系は、主に練習員課程、海曹候補士課程、海士特技課程、海曹士専修科課程、海曹特技課程、上級海曹課程となっており、そのうち第三術科学校で教育しているのは、

- **海士特技課程**：航空機整備等の基礎を理解し、整備の基本を身につける課程
- **海曹士専修科課程**：エンジン・機器等の専門的な知識・技能を身につける課程
- **海曹特技課程**：航空機整備等の作業の中核として必要な知識・技能を身につける課程

図1　幹部自衛官の教育体系。第3術科学校には幹部専門課程、幹部専修科課程、幹部中級課程、専攻科課程を設置

www.logi-biz.com
logi-biz online
Rhinos Publications, Inc.

図2　海曹士の教育体系。第3術科学校には海士特技課程、海曹士専修科課程、海曹特技課程、上級海曹課程を設置

■上級海曹課程：幹部を補佐できる管理能力及び部下指導のための知識・技能を身につける課程

の四つである（図2）。

座学、実習に加え実践的訓練

第三術科学校における術科教育は、座学による知識教育と教材実習による技能教育、実機実習による実践教育の三つの流れで構成されている。この術科教育にくわえ、自衛隊に必要な集団行動のための各種訓練や内務指導及び鍛錬活動を併せて第三術科学校の教育が成り立っている。

座学では近年、E-ラーニング教材の活用による学生個人ごとの学習進捗にあわせた知識教育を進めており、これによる教官の省力化も進んでいる。

実習の教材には実際の航空機の操作性を確保しながら、実機では見ることのできない航空機内部の動きが操作と連動して確認できるコンピュータを使用しており、高度で複雑な航空機の作動原理を視

「教材実習」の様子。高度で複雑な航空機の作動原理を習得する

座学ではパソコンを利用した教材の活用が進んでいる

航空機事故などを想定し、地上での消火活動や搭乗員の救助を学ぶ「地上救難実習」

「実機実習」は実務と同様の環境で行う

覚的に技能習得できるように工夫されている。

実機実習では、同じ基地内にある航空部隊等の整備現場において実機による教育を実施しており、最終的な即戦力養成の手段としている。

また、同校の教育分野は既に述べた航空機の整備のほか非常に多岐にわたっている。基地員に対する教育では、施設に関する道路施工等、地上救難に関する消火法・人命救助法等、警備に関する徒手格闘技等及び航空写真技術などの教育が実施されている。

第三術科学校の教育理念は「腕に実力、心に自信」である。これを支える教官たちは皆、同校が海上自衛隊における航空機の整備と航空基地の維持管理に関する術科教育の中枢であるとの自覚を持ち、平時、有事を問わず実動の自衛隊を支える隊員を育成することを目標としている。学生が実力を身につけ、心の支えとなる同僚、先輩、後輩を得ることができるよう日夜教育に励んでいる。軍

今回の研修では第三術科学校長との懇談を持つことができた。現第三術科学校長、細谷正夫海将補の持つ教育にかける思いは次のとおりである。

人造り全力！

第三術科学校長の勤務方針である「人造り全力！」は、航空機と航空基地のロジスティクスを支える隊員の人材育成にかける意気込みである。

教官は指導者たる幹部、上級海曹も含め学生や部下とともに一緒に汗を流しながら若い後輩を鍛えていかなければならない。

常に自分の頭で考え、目的を見据えて、広い視野と柔軟な独創性と健全な判断基準に基づき論理的な思考により自分で判断する。そして可能な限り業務を見直して削減・効率化できるところは削っていかなければならない。

「建前」でなく「本音」で勝負し、常に部下・学生を育てる、鍛えるという着意を忘れてはならない。そして、後輩に何が残せるのかを考え実行しなければならない。

こうして「やりがい」「生きがい」のある第三術科学校を創り上げていくことが「人造り全力！」である。

改革へのチャレンジ

昨年十二月に決定された新防衛大綱の中で、防衛力については「動的」という表現があり、その言葉の持つ意義をめぐって様々な議論がある。

海外派遣や災害派遣など海上自衛隊の置かれた現状において目指す防衛力整備を考えると、問題は今ある限られたロジスティクス資源を与えられた任務に如何に集中すべきかという点にある。かつ、部分最適化に陥ることなく全体目的に対して、整合性のある最適配分を図っていくことが重要であると考えられる。

そのため第三術科学校では、航空整備員と航空基地員の術科教育の中枢として防衛力整備の一翼を担っているという認識のもとに、改革へのチャレンジに邁進している。

現在の組織・業務を全面的に見直し、無駄・不要不急・非効率な部分を削るとともに、経費の節減及び組織の機能集約等により業務のスリム化・効率化を図っていく。この結果生じた余力を人的資源の充実や欠落・弱体機能の強化及び新たな能力の確保等に配分し、任務の多様化、事態の変化等に柔軟・迅速に即応できる態勢の構築を目指すのである。

本校はこの一年間、改革に向けての検討を進めてきた。次の段階では、検討結果を実行に移すことが必要となる。

東日本大震災に対する災害派遣で、今はまさに自衛隊の真価が問われている時である。国民の生命や安全を守る海上自衛隊のさらなる活躍に期待してもらいたい。

（談）

※ＳＯＬＥ（The International Society of Logistics：国際ロジスティクス学会）は一九六〇年代に設立されたロジスティクス団体。米国に本部を置き、会員は五一カ国・三〇〇〇～三五〇〇人に及ぶ。日本支部では毎月「フォーラム」を開催し、講演、研究発表、現場見学などを通じてロジスティクス・マネジメントに関する活発な意見交換、議論を行っている。

次回フォーラムのお知らせ

5月度のフォーラムは、5月17日（火）JALエアロ・コンサルティングの小林哲也常務による講演「民間航空機の整備」を予定している。このフォーラムは年間計画に基づいて運用しているが、単月のみの参加も可能。1回の参加費は6,000円。ご希望の方は事務局（s-sogabe@mbb.nifty.ne.jp）までお問い合わせ下さい。